

安全データシート

アクリル酸2-(ジメチルアミノ)エチル

改訂日: 2024-01-24 版番号: 1

1. 化学品及び会社情報

製品識別子

製品名	: アクリル酸2-(ジメチルアミノ)エチル
CB番号	: CB8688323
CAS	: 2439-35-2
同義語	: アクリル酸2-(ジメチルアミノ)エチル,ジメチルアミノエチルアクリレート

物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途	: 高分子凝集剤（カチオン系凝集剤等）・エマルジョン改質剤・繊維処理剤・粘着剤・接着剤原料; 塗料・接着剤・繊維加工剤・沈でん凝集剤原料
推奨されない用途	: なし

会社ID

会社名	: Chemicalbook
住所	: 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟
電話	: 400-158-6606

2. 危険有害性の要約

GHS分類

分類実施日

環境に対する有害性はGHS改訂4版を使用

H24.3.1、政府向けGHS分類ガイダンス(H22.7月版)を使用

物理化学的危険性

自己反応性化学品 タイプG

引火性液体 区分4

健康に対する有害性

特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分2(全身毒性)

特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分1(呼吸器系、全身毒性)

生殖毒性 区分2

皮膚感作性 区分1A

眼に対する重篤な損傷/眼刺激性 区分1

皮膚腐食性/刺激性 区分1

急性毒性(吸入:粉じん及びミスト) 区分2

急性毒性(吸入:蒸気) 区分1

急性毒性(経皮) 区分3

急性毒性(経口) 区分4

2.2 注意書きも含む GHSラベル要素

絵表示

GHS02	GHS05	GHS06	GHS09

注意喚起語

危険

危険有害性情報

H400 水生生物に非常に強い毒性。

H330 吸入すると生命に危険。

H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。

H314 重篤な皮膚の薬傷及び目の損傷。

H311 皮膚に接触すると有毒。

H302 飲み込むと有害。

H226 引火性液体及び蒸気。

注意書き

安全対策

P284 換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。

P280 保護手袋 / 保護衣 / 保護眼鏡 / 保護面を着用すること。

P273 環境への放出を避けること。

P272 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

P271 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。

P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

P264 取扱い後は皮膚をよく洗うこと。

P260 粉じん / 煙 / ガス / ミスト / 蒸気 / スプレーを吸入しないこと。

P243 静電気放電に対する措置を講ずること。

P242 火花を発生させない工具を使用すること。

P241 防爆型の【電気機器 / 換気装置 / 照明機器 / 機器】を使用すること。

P240 容器を接地しアースをとること。

P233 容器を密閉しておくこと。

P210 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

応急措置

P391 漏出物を回収すること。

P361 + P364 汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

P333 + P313 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合: 医師の診断 / 手当てを受けること。

P305 + P351 + P338 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P304 + P340 + P310 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに医師に連絡すること。

P303 + P361 + P353 皮膚(又は髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水【又はシャワー】で洗うこと。

P301 + P330 + P331 飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

P301 + P312 + P330 飲み込んだ場合: 気分が悪いときは医師に連絡すること。口をすすぐこと。

保管

P405 施錠して保管すること。

P403 + P235 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

P403 + P233 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

廃棄

P501 内容物 / 容器を承認された処理施設に廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 化学物質
分子量	: 143.18 g/mol
CAS番号	: 2439-35-2
化審法官報公示番号	: 2-2583
安衛法官報公示番号	: -

4. 応急措置

4.1 必要な応急手当

一般的アドバイス

応急措置担当者は自分が暴露しないよう、適切な防護を行う。この安全データシートを担当医に見せる。

吸入した場合

吸入後は新鮮な空気を吸うこと。ただちに医師の診察を受けること。呼吸停止時はただちに人工呼吸を実施し、必要に応じて酸素も吸入する。

皮膚に付着した場合

皮膚に接触した場合: すべての汚染された衣類を直ちに脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。直ちに医師を呼ぶ。

眼に入った場合

眼に触れた後は多量の水ですすぐこと。ただちに眼科医の診察を受けること。コンタクトレンズをはずす。

飲み込んだ場合

飲み込んだ後は水を飲ませ(多くてもグラス2杯)、嘔吐を避ける(穿孔のリスクあり)直ちに医師を呼ぶ。中和させようとしないこと。

4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

もっとも重要な既知の徴候と症状は、ラベル表示(項目2.2を参照)および/または項目11に記載されている

4.3 緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

データなし

5. 火災時の措置

5.1 消火剤

使ってはならない消火剤

本物質/混合物に対する消火剤の制限なし

適切な消火剤

水泡 二酸化炭素 (CO₂) 粉末

5.2 特有の危険有害性

火災時に有害な燃焼ガスや蒸気を生じるおそれあり。

高温で空気と反応して爆発性混合物を生じる。

蒸気は空気より重く、床に沿って広がることもある。

可燃性。

窒素酸化物(NO_x)

炭素酸化物

5.3 消防士へのアドバイス

自給式呼吸器がある場合のみ危険区域に留まってもよい。安全なゾーンまで離れるか適切な保護衣を着用して、皮膚に触れないようにすること。

5.4 詳細情報

容器を危険ゾーンから移動させて水で冷やすこと。ガス/蒸気/ミストを水スプレージェットで抑える(除去する)。消火水が、地上水または地下水のシステムを汚染しないようにする。

6. 漏出時の措置

6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

救急隊員以外への助言: 蒸気、エアゾールを吸入してはならない。触れないようにすること。十分な換気を確認する。熱や発火源から遠ざける。危険なエリアから避難し、緊急時手順に従い、専門家に相談のこと個人保護については項目 8 を参照する。

6.2 環境に対する注意事項

物質が排水施設に流れ込まないようにする。爆発のおそれ。

6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

排水溝に蓋をすること。こぼれたら集めて結合させ、ポンプですくい取る。物質の制限があれば順守のこと(セクション 7、10参照)液体吸収剤(例. Chemizorb®)で処置すること。正しく廃棄すること。関係エリアを清掃のこと。

6.4 参照すべき他の項目

廃棄はセクション 13 を参照。

7. 取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

安全取扱注意事項

換気フードの下で作業すること。吸い込まないこと。蒸気やエアロゾルが生じないようにすること。

火災及び爆発の予防

炎、熱および発火源から遠ざける。静電気放電に対する予防措置を講ずること。

衛生対策

汚した衣類はただちに替えること。予防的な皮膚保護を講じること。本物質を取り扱った後は手と顔を洗うこと。注意事項は項目2.2を参照。

7.2 配合禁忌等を踏まえた保管条件

保管クラス

保管クラス(ドイツ)(TRGS 510): 3: 可燃性液体

保管条件

容器を密閉し、乾燥した換気の良い場所に保管する。熱や発火源から遠ざける。鍵をかけておくか、資格のあるまたは認可された人のみが入りできる場所に入れておく。保管安定性推奨された保管温度2 - 8 °C熱、光および湿気に反応する。

7.3 特定の最終用途

項目1.2に記載されている用途以外には、その他の特定の用途が定められていない

8. ばく露防止及び保護措置

8.1 管理濃度

コンポーネント別作業環境測定パラメータ

メキノール 150-76-5 TWA 5 mg/m³ 米国。ACGIH限界閾値(TLV)

化学名 CAS番号 値 管理濃度 出典

8.2 曝露防止

適切な技術的管理

汚した衣類はただちに替えること。予防的な皮膚保護を講じること。本物質を取り扱った後は手と顔を洗うこと。

保護具

眼 / 顔面の保護

NIOSH (US) または EN 166 (EU) などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた眼の

保護具を使用する。密着性の高い安全ゴーグル

身体の保護

難燃静電気保護服。

呼吸用保護具

気化ガス/エアロゾル発生時に必要

次の規格に準拠しているフィルター式呼吸器保護具を推奨します。DIN EN 143、DIN 14387お

よび使用済み呼吸器保護システムに関連する他の付属規格。

環境暴露の制御

物質が排水施設に流れ込まないようにする。爆発のおそれ。

9. 物理的及び化学的性質

Information on basic physicochemical properties

形状	液体 (IMDG(2010))
色	無色から淡黄色 (IMDG(2010))
臭い	刺激性の不快な臭い (IMDG(2010))

臭いのしきい(閾)値	データなし。
pH	8.5 (aqueous solution) (SIDS (2003))
1.23mPa·s (25°C) (SIDS (2003))	
データなし。	
209°C (1013 hPa) (SIDS (2003))	
0.68 (25°C) (SIDS (2003))	
アルコール、酢酸エチル、ベンゼン:可溶 n-ヘキサン、石油エーテル:不溶 (NITE初期リスク評価書 ver.1.0, 20 (2007))	
水:24 g/100 mL (20°C) (SIDS (2003))	
0.936 (25°C/4°C) (Ullmanns(E) (6th, 2003))	
データなし。	
68 Pa (20°C) (SIDS (2003))	
0.6 vol% (45°C)~5.5 vol% (88°C)(IUCLID (2000))	
データなし。	
データなし。	
61.7°C (CC) (SIDS (2003))	
172.5°C (SIDS (2003))	
-80°C (SIDS (2003))	
融点・凝固点	
-80°C (SIDS (2003))	
沸点、初留点及び沸騰範囲	
172.5°C (SIDS (2003))	
引火点	
61.7°C (CC) (SIDS (2003))	
蒸発速度(酢酸ブチル=1)	
データなし。	
燃焼性(固体、気体)	
データなし。	
燃焼又は爆発範囲	
0.6 vol% (45°C)~5.5 vol% (88°C)(IUCLID (2000))	
蒸気圧	
68 Pa (20°C) (SIDS (2003))	
蒸気密度	
データなし。	
比重(相対密度)	
0.936 (25°C/4°C) (Ullmanns(E) (6th, 2003))	

溶解度

アルコール、酢酸エチル、ベンゼン:可溶 n-ヘキサン、石油エーテル:不溶 (NITE初期リスク評価書 ver.1.0, 20 (2007))

水:24 g/100 mL (20°C) (SIDS (2003))

n-オクタノール/水分配係数

0.68 (25°C) (SIDS (2003))

自然発火温度

209°C (1013 hPa) (SIDS (2003))

分解温度

データなし。

粘度(粘性率)

1.23mPa·s (25°C) (SIDS (2003))

10. 安定性及び反応性

10.1 反応性

蒸気/空気混合物は、強く温めると爆発性となる。

10.2 化学的安定性

標準的な大気条件(室温)で化学的に安定。

10.3 危険有害反応可能性

データなし

10.4 避けるべき条件

加熱

10.5 混触危険物質

強酸化剤強塩基類, 強酸化剤, 強還元剤

10.6 危険有害な分解生成物

火災の場合:項目5を参照

11. 有害性情報

急性毒性

経口

ラットのLD50値は 455 mg/kg(OECD TG401、GLP) (SIDS (2003))。GHS分類:区分4 ラットのLD50値は 455 mg/kg(OECD TG401、GLP) (SIDS (2003))。GHS分類:区分4。

経皮

ラットLD50値 419 mg/kgおよび891 mg/kg(いずれも OECD TG402、GLP)(SIDS (2003))、ウサギLD50値 50~200 mg/kg(SIDS (2003))。GHS分類:区分3 ラットLD50値 419 mg/kgおよび891 mg/kg(いずれも OECD TG402、GLP)(SIDS (2003))、ウサギLD50値 50~200 mg/kg(SIDS (2003))。GHS分類:区分3。

吸入:ガス

GHSの定義における液体である。GHS分類:分類対象外 GHSの定義における液体である。

吸入:蒸気

ラットのLC50値 0.927 mg/L/1h(158 ppm/1h = 83 ppm/4h)[OECD TG403、GLP]および0.22 mg/L/4h (37.6 ppm/4h)(SIDS (2003))。GHS分類:区分1 ラットのLC50値 0.927 mg/L/1h(158 ppm/1h = 83 ppm/4h)[OECD TG403、GLP]および0.22 mg/L/4h (37.6 ppm/4h)(SIDS (2003))。GHS分類:区分1。

吸入:粉じん及びミスト

ラットLC50値は 0.066 mg/L/4h [OECD TG403、GLP](SIDS (2003))。GHS分類:区分2 ラットLC50値は 0.066 mg/L/4h [OECD TG403、GLP](SIDS (2003))。GHS分類:区分2。

皮膚腐食性及び刺激性

ウサギ6匹に試験物質原液0.5 mLを4時間適用した試験(OECD TG 404)において、全動物に腐食性がみられ、皮膚一次刺激指数(PDII)は8であった(SIDS(2003))。なお、他にもウサギを用いた2件のドレイズ試験の結果が報告され、PIIは8および7.6で、いずれも腐食性(corrosive)の結果が得られている(SIDS(2003))。GHS分類:区分1 ウサギ6匹に試験物質原液0.5 mLを4時間適用した試験(OECD TG 404)において、全動物に腐食性がみられ、皮膚一次刺激指数(PDII)は8であった(SIDS(2003))。GHS分類:区分1。なお、他にもウサギを用いた2件のドレイズ試験の結果が報告され、PIIは8および7.6で、いずれも腐食性(corrosive)の結果が得られている(SIDS(2003))。

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

ウサギ2匹の眼に試験物質原液0.1 mLを滴下4秒後に洗浄した試験で、両動物とも1時間以内に角膜、虹彩、結膜に著しい病変が見られ、腐食性(corrosive)との評価(SIDS (2003))。なお、別のウサギを用いたドレイズ試験においても腐食性(corrosive)との結果(SIDS (2003))が報告されている。GHS分類:区分1 ウサギ2匹の眼に試験物質原液0.1 mLを滴下4秒後に洗浄した試験で、両動物とも1時間以内に角膜、虹彩、結膜に著しい病変が見られ、腐食性(corrosive)との評価(SIDS (2003))。GHS分類:区分1。なお、別のウサギを用いたドレイズ試験においても腐食性(corrosive)との結果(SIDS (2003))が報告されている。

呼吸器感作性

データなし。GHS分類:分類できない データなし。

皮膚感作性

モルモットのマキシマイゼーション試験(OECD TG406、GLP)において、本物質0.5%皮内投与による誘導処置の結果、陽性率は100%(20/20)で感作性あり(sensitizing)(SIDS (2003))。GHS分類:区分1A モルモットのマキシマイゼーション試験(OECD TG406、GLP)において、本物質0.5%皮内投与による誘導処置の結果、陽性率は100%(20/20)で感作性あり(sensitizing)(SIDS (2003))。GHS分類:区分1A。

生殖細胞変異原性

マウスに腹腔内投与による骨髓細胞を用いた小核試験(体細胞in vivo変異原性試験)(OECD TG474、GLP)で陰性(SIDS (2003))。なお、in vitro試験として、エームス試験、CHL/IU細胞およびヒトリンパ球を用いた染色体異常試験では陽性(厚生省報告(1997))の報告あり。GHS分類:区分外 マウスに腹腔内投与による骨髓細胞を用いた小核試験(体細胞in vivo変異原性試験)(OECD TG474、GLP)で陰性(SIDS (2003))。GHS分類:区分外。なお、in vitro試験として、エームス試験、CHL/IU細胞およびヒトリンパ球を用いた染色体異常試験では陽性(厚生省報告(1997))の報告あり。

発がん性

データなし。GHS分類:分類できない データなし。

生殖毒性

妊娠ラットの器官形成期に経口投与した発生毒性試験(OECD TG414、GLP)において、母動物が死亡を含む一般毒性を示した用量(100 mg/kg/日)で、着床後胚損失率の増加、矮小仔、無指症、口蓋裂、水頭症、精巢変位などの奇形や異常の増加がみられた(SIDS (2003))。なお、ラットに経口投与(4~100 mg/kg/日)による反復投与毒性/生殖発生毒性併合スクリーニング試験(OECD TG422、GLP)では、100mg/kg群の親動物の雄で一過性の体重増加抑制と摂餌量減少、雌で2例の死亡が認められたが、性機能および生殖能に対する影響はなく、また、仔の出生や生存にも変化は認められなかった(厚労省報告(Access on Sept. 2011))。GHS分類:区分2 妊娠ラットの器官形成期に経口投与した発生毒性試験(OECD TG414、GLP)において、母動物が死亡を含む一般毒性を示した用量(100 mg/kg/日)で、着床後胚損失率の増加、矮小仔、無指症、口蓋裂、水頭症、精巢変位などの奇形や異常の増加がみられた(SIDS (2003))。GHS分類:区分2。なお、ラットに経口投与(4~100 mg/kg/日)による反復投与毒性/生殖発生毒性併合スクリーニング試験(OECD TG422、GLP)では、100mg/kg群の親動物の雄で一過性の体重増加抑制と摂餌量減少、

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

ラットの4時間吸入(エアゾール)による急性毒性試験(LC50 = 0.066 mg/L)(OECD TG403、GLP)で、あえぎ呼吸、ラッセル音、嗜眠の症状がみられ、死亡動物の剖検では肺のうっ血、腫脹、肺水腫が認められた(SIDS (2003))。また、ラットの1時間吸入(蒸気)による急性毒性試験(4時間換算LC50 = 0.486 mg/L mg/L)(OECD TG403、GLP)でも、努力性呼吸、ラッセル音がみられ、剖検により死亡動物で鼻腔、喉頭および気管に壊死、化膿性滲出液、生存動物で喉頭に角質化を伴った上皮過形成が区分1のガイダンス値範囲内の用量で認められた(SIDS (2003))。GHS分類:区分1(呼吸器系)。一方、ラットの急性経口毒性試験(80~2000 mg/kg; LD50 = 455 mg/kg)(OECD TG401、GLP)で自発運動低下、鎮静、立毛、呼吸困難、死亡前に強直間代性痙攣、急性経皮毒性試験(200~2000 mg/kg; LD50 = 419 mg/kg)(OECD TG402、GLP)では全用量の全動物で自発運動の低下がそれぞれ観察され(SIDS (2003))、これらの影響は両経路ともガイダンス値区分1の範囲に相当しているが、標的臓器を特定できないのでGHS分類:区分1(全身毒性)。ラットの4時間吸入(エアゾール)による急性毒性試験(LC50 = 0.066 mg/L)(OECD TG403、GLP)で、あえぎ呼吸、ラッセル音、嗜眠の症状がみられ、死亡動物の剖検では肺のうっ血、腫脹、肺水腫が認められた(SIDS (2003))。また、ラットの1時間吸入(蒸気)による急性毒性試験(4時間換算LC50 = 0.486 mg/L mg/L)(OECD TG403、GLP)でも、努力性呼吸、ラッセル音がみられ、剖検により死亡動物で鼻腔、喉頭および気管に壊死、化膿性滲出液、生存動物で喉頭に角質

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

ラットの13週間反復経口投与試験(OECD TG408、GLP)において、最高用量の50 mg/kg/dayで高い死亡率に加え、死亡前に呼吸困難と一般状態悪化、生存動物では流涎と喘鳴がみられた(SIDS (2003))。病理組織学的検査では生存例および死亡例とも試験物質投与の影響が肺と前胃に見られたが、肺の病変は胃内容物の逆流がもたらした変化と記述されている(SIDS (2003))。また、ラットに経口投与による反復投与毒性/生殖発生毒性併合スクリーニング試験(OECD TG 422、GLP)において、最高用量の100mg/kg群(90日換算:約47 mg/kg/day)の雌2例が死亡し、肺のうっ血、出血、水腫がみられ、死因の可能性として肺の変化が挙げられ、また、主な病理学的変化は、肥厚、潰瘍、過形成など前胃粘膜の病変であった(厚労省報告(Access on Sept. 2011))と報告されている。以上より、ガイダンス値区分2に相当する用量で死亡が発生し、前胃の病変および死亡例で散発性の肺障害が見られ、死因の可能性があると述べられているが、本物質は腐食性物質であり、前胃の病変は局所的な刺激と思われる、一方、肺の障害に関しては死亡例で発生していることから標的臓器の特定には不十分であるためGHS分類:区分2(全身毒性)。ラットの13週間反復経口投与試験(OECD TG408、GLP)において、最高用量の50 mg/kg/dayで高い死亡率に加え、死亡前に呼吸困難と一般状態悪化、生存動物では流涎と喘鳴がみられた(SIDS (2003))。病理組織学的検査では生存例および死亡例とも試験物質投与の影響が肺と前胃に見られたが、肺の病変は胃内容物の逆流がもたらした変化と記述されている(SIDS (2003))。また、ラットに経口投与による反復投与毒性/生殖発生毒性併合スクリーニング試験(OECD TG 422、GLP)において、最

吸引性呼吸器有害性

実験動物において経口投与で逆流による刺激性が原因と考えられる肺胞の出血、肺の水腫及びうっ血と死亡(SIDS (2003))が報告されており、動粘性率が1.31mm²/s(25℃)(粘度1.23mPa·s、密度0.94g/cm³(SIDS (2003)))で区分2であるが、JIS分類基準では区分2を使用しないため、分類できないとした。GHS分類:分類できない(国連GHS分類基準の区分2) 実験動物において経口投与で逆流による刺激性が原因と考えられる肺胞の出血、肺の水腫及びうっ血と死亡(SIDS (2003))が報告されており、動粘性率が1.31mm²/s(25℃)(粘度1.23mPa·s、密度0.94g/cm³(SIDS (2003)))である。GHS分類:分類できない(国連GHS分類基準の区分2)

12. 環境影響情報

12.1 生態毒性

魚毒性

半静止試験 LC50 - *Oryzias latipes* - 8.49 mg/l - 96 h

(OECD 試験ガイドライン 203)

ミジンコ等の水生無脊椎動物

固定化 EC50 - *Daphnia magna* (オオミジンコ) - 9.92 mg/l - 48 h

脊椎動物に対する毒性

(OECD 試験ガイドライン 202)

藻類に対する毒性

止水式試験 EC50 - *Desmodesmus subspicatus* (セネデスマス・サブスピカトゥス) - 0.88 mg/l - 72 h

12.2 残留性・分解性

生分解性

好気性 - 曝露時間 28 d

結果: 96 % - 易分解性。

12.3 生体蓄積性

データなし

12.4 土壌中の移動性

データなし

12.5 PBT および vPvB の評価結果

化学物質安全性評価が必要ではない/行っていないため、PBT/vPvB評価データはない。

12.6 内分泌かく乱性

データなし

12.7 他の有害影響

データなし

13. 廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

製品

内容及び容器は、関連法規及び各自治体の条例等の規制に従い、産業廃棄物として適切に処理すること。

14. 輸送上の注意

14.1 国連番号

ADR/RID (陸上規制): 3302 IMDG (海上規制): 3302 IATA-DGR (航空規制): 3302

14.2 国連輸送名

IATA-DGR (航空規制): 2-Dimethylaminoethyl acrylate, stabilized

IMDG (海上規制): 2-DIMETHYLAMINOETHYL ACRYLATE

ADR/RID (陸上規制): 2-DIMETHYLAMINOETHYL ACRYLATE

14.3 輸送危険有害性クラス

ADR/RID (陸上規制): 6.1 IMDG (海上規制): 6.1 IATA-DGR (航空規制): 6.1

14.4 容器等級

ADR/RID (陸上規制): II IMDG (海上規制): II IATA-DGR (航空規制): II

14.5 環境危険有害性

非該当

ADR/RID: 非該当 IMDG 海洋汚染物質(該当・非該当): IATA-DGR (航空規制): 非該当

14.6 特別の安全対策

なし

14.7 混触危険物質

強酸化剤強塩基類, 強酸化剤, 強還元剤

15. 適用法令

労働安全衛生法

危険物・引火性の物 危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号)

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)

第1種指定化学物質 第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1)

消防法

第4類引火性液体、第二石油類水溶性液体 第4類引火性液体、第二石油類水溶性液体(法第2条第7項危険物別表第1・第4類)

船舶安全法

毒物類・毒物 毒物類・毒物(危規則第3条危険物告示別表第1)

航空法

毒物類・毒物 毒物類・毒物(施行規則第194条危険物告示別表第1)

16. その他の情報

略語と頭字語

TWA: 時間加重平均

STEL: 短期暴露限度

RID: 鉄道による危険物の国際運送に関する規則

LD50: 致死量 50%

LC50: 致死濃度 50%

IMDG: 国際海上危険物

IATA: 国際航空運送協会

EC50: 有効濃度 50%

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

参考文献

- 【1】労働安全衛生法 ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp>
- 【2】化学物質審査規制法（化審法） <https://www.env.go.jp>
- 【3】化学物質排出把握管理促進法（PRTR法） <https://www.chemicoco.env.go.jp>
- 【4】NITE化学物質総合情報提供システム（NITE-CHRIP） <https://www.nite.go.jp/>
- 【5】カメオケミカルズ公式サイト <http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple>
- 【6】ChemIDplus、ウェブサイト <http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp>
- 【7】ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト <https://echa.europa.eu/>
- 【8】eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイト http://www.echemportal.org/echemportal/index?pageID=0&request_locale=en
- 【9】ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイト <http://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg>
- 【10】有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイト <http://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp>
- 【11】HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト <https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm>
- 【12】IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト <http://www.iarc.fr/>
- 【13】IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイト <http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home>
- 【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

免責事項:

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本SDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。